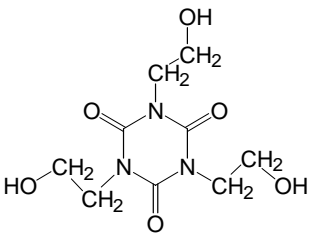


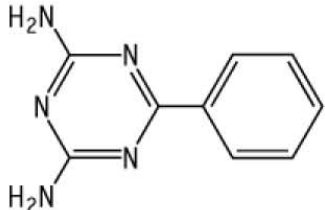
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-1051	CAS No.	839-90-7
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名称：1, 3, 5-トリス(2-ヒドロキシエチル)-1, 3, 5-トリアジン-2, 4, 6-(1H, 3H, 5H)-トリオン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.0%. 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.0%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/TU. 2.612 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 2.612 mg/mL +S9mix 群 : 2.612 mg/mL 24 時間処理群 : 2.612 mg/mL</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	99.0 %.	
	用量	4 投与群 (30, 100, 300, 1000mg/kg)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与毒性：300 mg/kg/day 生殖発生毒性：1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性： 組織学的所見 (肝-髄外造血：1000♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
回復性	実施せず		

他の毒性情報	[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用] 変異原性： Ames 試験 (TA97, TA98, TA100, TA1535, TA1537) : 陰性 - (With and without metabolic activation) 染色体異常試験 (CHO cells) : 陰性 - (With and without metabolic activation)				
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 300 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。				
藻類生長阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 1000 mg/L 実測濃度 940mg/L (幾何平均値) 助剤 : なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) >1000 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =1000 mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 試験濃度 : 設定濃度 1000 mg/L 実測濃度 930 mg/L (幾何平均値) 助剤 : なし 48hEiC50 (設定値に基づく) >1000 mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG211 試験方式 : 半止水式、48 時間毎に換水 試験濃度 : 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 94 mg/L (時間加重平均値) 助剤 : なし 21dNOEC (設定値に基づく) =100 mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)				
魚類急性毒性	生物種 : ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法 : OECD-TG203 試験方式 : 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度 : 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 92 mg/L (幾何平均値) 助剤 : なし 96hLC50 (設定値に基づく) >100 mg/L				
生態影響判定根拠	3 種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、試験上限濃度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54	0/18	—	5~10(μ g/L)
	底質	S54	0/18	—	0.002~0.07(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—

備考	1 S55 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)
----	-------------------------------

既存化学物質審査シート

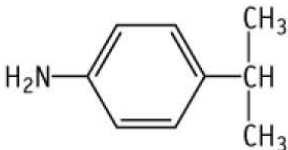
官報公示 整理番号	5-1028	CAS No.	91-76-9
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	 <p>名 称： 2, 4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン</p>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 98.0%以上. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群: 5000 μg/plate +S9mix 群: 5000 μg/plate (2500 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陽性 D20=0.045mg/mL (+S9mix 処理群: 構造異常) +S9mix 群及び 24 時間処理群において構造異常の誘発、 48 時間処理群において数的異常の誘発。 純度 98.0%以上. 溶媒 (1%CMC-Na 水溶液-懸濁). CHL/IU. 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験) -S9mix 群: 5.0 mg/mL (全用量で被験物質の析出) +S9mix 群: 0.156 mg/mL (細胞毒性のため 0.0781 mg/mL まで観察) 24 時間処理群: 0.8 mg/mL (細胞毒性のため 0.4 mg/mL まで観察) 48 時間処理群: 0.8 mg/mL (0.4 mg/mL 以上で被験物質の析出) (追加試験) +S9mix 群: 0.16 mg/mL (細胞毒性のため 0.14 mg/mL まで観察) 24 時間処理群: 0.9 mg/mL (細胞毒性のため 0.8 mg/mL まで観察) 48 時間処理群: 1.6 mg/mL (0.4 mg/mL 以上で被験物質の析出)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒: 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	98.0%以上	
	用量	3 投与群 (4, 20, 100 mg/kg/day)	
	死亡	100♂(1/12), 100♀(1/12)	
	NOEL	反復投与毒性: 4 mg/kg/day 生殖発生毒性: 4 mg/kg/day	

推定根拠	反復投与毒性： 体重↓：20 以上♀♂ 一般状態（摂餌量↓：20 以上♀♂） 血液学的検査（MCH↑：20 以上♂） 生殖発生毒性： 哺育不良：20 以上♀ 4 日児生存率↓：20 以上♀♂
他の毒性	反復投与毒性： 一般状態（自発運動低下，呼吸緩徐：100♂） 血液学的検査（RBC↓・Het↓・MCHC↑・Ret↑：100♂） 血液生化学的検査（Alb↑・A/G↑・GOT↑・Cho↑・TG↓・PL↑・Bil↑ Na↓・K↓：100♂） 絶対重量（肝↑・副腎↑：100♂） 組織学的検査（肝－小葉中心性肝細胞肥大：100♀♂） 生殖発生毒性： 死産児率↑・出産率↓：100♀、 生後 0 日児体重↓・生後 4 日児体重↓：100♀♂
回復性	実施せず
他の毒性 情報	[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用] 反復毒性： SD-Rat (25, 250, and 2000 ppm(1.9, 19.0, 173.0mg/kg/day)(混餌投与))、90 日間 NOAEL=250ppm (19 mg/kg bw) 体重↓：2000♂♀ 一般状態(円背位・立毛：2000♂♀) 血液生化学的検査(GPT・Bil↑：2000♂♀) 相対重量(肝↑：2000♀) 組織学的所見(肝－小葉中心性肝細胞肥大：2000♂♀、 腎臓－ヘモシデリン沈着：2000♂♀、 副腎－皮質球状層細胞肥大及び空胞化：2000♂♀、 膵臓－炎症細胞浸潤を伴う外分泌細胞変性、：2000♂♀、 脾臓－髓外造血：2000♂♀・ヘモシデリン沈着：250 以上♂・2000♀ 変異原性： Ames 試験 (TA98, TA100, TA1535, TA1537, TA1538)：陰性 - (With and without metabolic activation) 染色体異常試験 (ヒトリンパ球)：陽性 - (With metabolic activation) - (Without metabolic activation, within the solubility limit) + (Without metabolic activation, above the solubility limit) マウスリンフォーマ TK 試験：陽性 - (With metabolic activation, within the solubility limit) + (With metabolic activation, above the solubility limit) -(Without metabolic activation) 小核試験 (マウス)：陰性 小核試験 (マウス)：inconclusive がん原性： Charles-River CD Rat(♂のみ)(500, 1000 ppm(37.5, 75 mg/kg/day) (混餌投与))、 18 ヶ月

	腫瘍発生率：(-) 体重↓：1000ppm CD-1 mice(2000, 4000 ppm (300, 600 mg/kg/day) (混餌投与)、 18ヶ月 腫瘍発生率：(-) その他：対照群と差はなし
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL4mg/kg/day(ReproTox 試験における生殖発生毒性においても NOEL4mg/kg/day)であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 15、24、39、62、100 mg/L 実測濃度 15、24、39、62、97 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) =71 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =39 mg/L
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 7.7、19、48、120、300 mg/L 実測濃度 7.5、19、47、120、290 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (設定値に基づく) =52 mg/L
ミジンコ繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週3回換水 試験濃度：設定濃度 1.9、3.4、6.2、11、20 mg/L 実測濃度 1.8、3.3、5.9、11、20 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 21dNOEC (設定値に基づく) =1.9 mg/L
魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48時間後に換水 物質濃度：設定濃度 25、50、100 mg/L 実測濃度 26、50、100 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) >100 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 50 mg/L 群：異常遊泳 (72hr、96hr) 100 mg/L 群：異常遊泳 (3hr、24hr、48hr、72hr、96hr) 異常呼吸 (96hr)
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEC50=52mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験) であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=1.9mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。

備考	
----	--

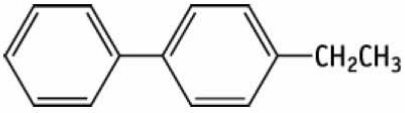
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-206	CAS No.	99-88-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称： 4 - (1 - メチルエチル) アニリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陽性 比活性値 = 3454rev/mg (+S9mix 群 : TA100) +S9mix 群の TA100, TA1535 で対照の 2 倍を超える変異コロニーの誘発 純度 99.27%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群 : 1500 μ g/plate (TA100, TA1537 : 750 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1500 μ g/plate (最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 1500 μ g/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 750 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 188 μ g/plate (TA100, TA1535) 1500 μ g/plate (TA98, TA1537, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 99.27%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.4 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.25 mg/mL まで観察) +S9mix 群 : 0.6 mg/mL (細胞毒性のため 0.30 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.4 mg/mL (細胞毒性のため 0.20 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.4 mg/mL (細胞毒性のため 0.20 mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性 生殖発生毒 性併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.27%	
	用量	3 投与群 (6, 20, 60 mg/kg/day)	
	死亡	60 ♀ (1/12)	
NOEL	反復投与毒性 : 6 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 20 mg/kg/day		

推定根拠	<p>反復投与毒性： 一般状態（眼貧血：20以上♀♂） 血液学的検査（Met-Hgb↑：20以上♂） 絶対重量（脾↑：20以上♀・60♂） 相対重量（脾↑：20以上♀・60♂、肝↑：20以上♂・60♀） 組織学的検査（骨髄—造血亢進：20以上♀♂、 脾—鬱血・色素沈着・髓外造血：20以上♀♂）</p> <p>生殖発生毒性： 4日児生存率↓：60♂ 哺育0日体重低下：60</p>
他の毒性	<p>血液学的検査（Hct↓・Hgb↓・RBC↓・MCV↑・MCH↑・MCHC↓・Plt↑・Ret↑：60♂） 血液生化学的検査（Alb↑・A/G↑・Bil↑：60♂） 絶対重量（副腎↓：60♂） 組織学的所見（肝—クッパー細胞色素沈着・肝細胞肥大：60♀♂）</p>
回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	染色体異常試験は陰性であるが、Ames試験は陽性、NOEL 6 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.31、0.77、1.9、4.8、12、30 mg/L 実測濃度 0.27、0.68、1.7、4.2、10、26 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=18 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.68 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.32、1.0、3.2、10、32、100 mg/L 実測濃度 0.31、0.97、3.1、9.6、31、98 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく）=1.5 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0029、0.0051、0.0093、0.017、0.030 mg/L 実測濃度 0.0026、0.0046、0.0086、0.016、0.028 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく）=0.0051 mg/L</p>

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 10、16、24、36、53、80 mg/L 実測濃度 10、16、24、36、54、80 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=46 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 24 mg/L 群：異常遊泳（48hr、72hr、96hr） 36 mg/L 群：異常遊泳（24hr、48hr、72hr、96hr） 遊泳不能（96hr） 53 mg/L 群：異常遊泳（24hr、48hr） 遊泳不能（48hr、72hr、96hr） 異常呼吸（48hr）</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.5 mg/L かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0051mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-15	CAS No.	5707-44-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4-エチル-1,1-ビフェニル 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 97.998%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) - S9mix 群 : 19.5 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 39.1 μg/plate (WP2 uvrA : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 78.1 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 313 μg/plate (WP2 uvrA : 156 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 97.998%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. - S9mix 群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.15, 1.25 mg/mL 以外を観察) + S9mix 群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.15 mg/mL 以外を観察) 24 時間処理群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.15, 2.5 mg/mL 以外を観察) 48 時間処理群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.0375 mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	97.998%	
	用量	4 投与群 (20, 100, 500, 1000mg/kg/day)	
	死亡	500♂(1/10), 1000♂(5/10), 1000♀(4/10)	
	NOEL	20 mg/kg/day	
	推定根拠	血液学的検査 (Cl↑ : 100 以上♂) 相対重量 (肝↑ : 100 以上♀・500 以上♂) 組織学的検査 (肝-肝細胞肥大 : 100 以上♀♂ 腎-皮質の塩基性尿細管 100 以上♀♂ 胃-腺胃のびらん : 100 以上♀・1000♂)	

他の毒性	<p>体重↓：500以上♀♂ 一般状態（摂餌量↓：500以上♀♂ 黒色便・排便量の減少・腹部周辺脱毛：500以上♀♂ 腹臥位・呼吸深大・皮膚色蒼白・体表温低下：1000♀♂ 被毛の汚れ：500以上♀・1000♂）</p> <p>尿検査（尿量↑・尿潜血：500以上♀・1000♂、尿中タンパク↑：1000♀♂） 血液学的検査（MCV↓：500以上♂、MCH↓：1000♂） 血液生化学的検査（A/G↑：500以上♂、CRN↑：500以上♀♂ Pi↑・Ca↑・LDH↑：1000♀、Na↑・GPT↑：1000♂ γ-GTP↑：1000♀♂）</p> <p>絶対重量（肝↑：500以上♀♂、腎↑：1000♀、胸腺↓：500以上♂♀） 相対重量（腎↑：500以上♀♂、胸腺↓：500以上♂♀） 組織学的検査（肝－クッパー細胞のヘモジリデン沈着・巣状壊死：500以上♂♀ 胸腺－萎縮：500以上♀♂ 脾－ヘモジリデン沈着：500以上♀ 腎－皮質/髓質尿細管拡張・髓質塩基性尿細管・タンパク性尿円柱・乳頭壊死：500以上♀♂ 胃－前胃の粘膜上皮過形成：500以上♀♂）</p>	
回復性	<p>体重↓ 尿検査（尿中タンパク↑） 肝重量↑、腎重量↑ 血液学的検査（MCV↓） 血液生化学的検査（γ-GTP↑） 組織学的所見（肝－ヘモジリデン沈着 腎－皮質及び髓質の好塩基性尿細管・皮質尿細管拡張、 タンパク性尿円柱・乳頭壊死）</p>	
簡易生殖試験	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油
	純度	99.71%
	用量	4投与群（10, 30, 100, 300 mg/kg/day）
	死亡	300♀（4/12）
	NOEL	反復投与毒性：30mg/kg/day 生殖発生毒性：30 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性： 体重↓：100以上♂・300♀生殖発生毒性： 妊娠期間↑：100以上 出生率↓・出産率↓・4日生存児数↓：100以上
他の毒性	反復投与毒性： 摂餌量↓：300♀ 生殖発生毒性： 着床数↓・総出産児数↓・分娩率↓：300 生存児数（生育0日）↓：300	
回復性	実施せず	
人健康影響判定根拠	Ames試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 20 mg/kg/day(腎に毒性学的に軽微でない変化がみとめられる)であることから第二種監視化学物質相当。	

藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.010、0.022、0.048、0.10、0.23、0.50 mg/L 実測濃度 0.0056、0.013、0.027、0.057、0.16、0.36 mg/L(幾何平均値) 助剤： HCO-40 2 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.15 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.027 mg/L</p>
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.078、0.14、0.24、0.39、0.69 mg/L（幾何平均値） 助剤： HCO-40 及び DMF（1:1） 10.0mg/L 48hEiC50（実測値に基づく）=0.27 mg/L</p>
ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0040、0.013、0.040、0.13、0.40 mg/L 実測濃度 0.0027、0.0097、0.028、0.091、0.27 mg/L（時間加重平均値） 助剤： HCO-60 及び DMF（5:12） 100 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.028 mg/L</p>
魚類急性 毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 0.50、0.90、1.6、2.8、5.0 mg/L 実測濃度 0.34、0.64、1.2、2.5、4.9 mg/L（幾何平均値） 助剤： HCO-40 100mg/L（最高濃度） 96hLC50（実測値に基づく）=0.60 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.34 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 1/10） 0.64 mg/L 群： 異常遊泳（48hr 8/9、72hr 7/7、96hr 4/4） 遊泳不能（48hr 1/9） 1.2 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 1/10、48hr 1/4、72hr 1/1、96hr 1/1） 遊泳不能（48hr 3/4） 2.5 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 1/3） 遊泳不能（24hr 2/3）</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.15mg/L、0-72hNOECr=0.027mg/L、ミジンコ 急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.27mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.028mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.60mg/L であること から、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-243	CAS No.	77-85-0
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名 称：1, 1, 1-トリス (ヒドロキシメチル) エタン</p> $ \begin{array}{c} \text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{CH}_3-\text{C}-\text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{CH}_2\text{OH} \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.0%. 溶媒 (注射用水-溶解).</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>(本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate</p> <p>+S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.0%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU.</p> <p>1.2 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 1.2 mg/mL</p> <p>+S9mix 群 : 1.2 mg/mL</p> <p>24 時間処理群 : 1.2 mg/mL</p> <p>48 時間処理群 : 1.2 mg/mL</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用水	
	純度	99.0 %	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与 : 300 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与 : 体重↓ (妊娠 20 日) : 1000 ♀ 血液生化学的検査(TP↑・GOT↑・GPT↑ : 1000♂、Glu↓ : 1000♂) 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
他の毒性	-		
回復性	実施せず		

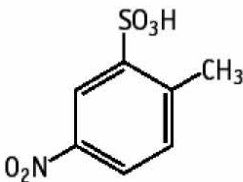
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 300 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養</p> <p>試験濃度： 設定濃度 1000mg/L 実測濃度 960 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>0-72hErC50 (設定値に基づく) >1000 mg/L</p> <p>0-72hNOECr (設定値に基づく) =1000 mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 止水式</p> <p>試験濃度： 設定濃度 1000 mg/L 実測濃度 970mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>48hEiC50 (設定値に基づく) >1000 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、週に3回換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 88 mg/L (時間加重平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>21dNOEC (実測値に基づく) =88 mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)</p>
魚類急性毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i></p> <p>試験法： OECD-TG203</p> <p>試験方式： 半止水式、24時間毎に換水</p> <p>物質濃度： 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 89 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>96hLC50 (設定値に基づく) >100 mg/L</p>
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、試験上限濃度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1307	CAS No.	119-06-2
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名 称： ジトリデシルフタレート 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.82%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I、II) -S9mix 群： 5000 μ g/plate (TA1537： 最高用量で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2 uvrA : 1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群： 5000 μ g/plate (1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陰性 純度 99.82%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 4.750 mg/mL (5μL/mL) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度 まで実施。 -S9mix 群： 4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出) +S9mix 群： 4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出) 24 時間処理群： 4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出) 48 時間処理群： 4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	93.7～100% *エステル価 198-212 より換算	
	用量	3 投与群(10, 50, 250 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与： 10mg/kg/day 生殖発生毒性： 50 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与： 一般状態(流涎： 50 以上♂) 相対重量(肝↑： 50 以上♀・250♂) 組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大： 50 以上♂♀) 生殖発生毒性： 出生率の低下(250♀)		

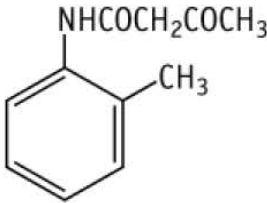
	他の毒性	反復投与： 体重↓(交配前)：(250♀) 血液生化学的検査(ALP↑：250♂) 絶対重量(腎↑：250♂) 組織学的所見(腎－好酸性小体↑、 腎－腎盂上皮過形成：250♀、膀胱－移行上皮過形成：250♀)
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 10 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 50 mg/L (分散可能最大濃度) 実測濃度 48 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 100mg/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) >50 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =50 mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 50 mg/L (分散可能最大濃度) 実測濃度 53 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 100mg/L 48hErC50 (設定値に基づく) >50 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 10.0 mg/L 実測濃度 9.5～10 mg/L 助剤： HCO-40 及び DMF (1:1) 40 mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) =10 mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)	
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 50.0 mg/L (分散可能最大濃度) 実測濃度 49 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 100 mg/L 96hLC50 (設定値に基づく) >50 mg/L	
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、溶解限度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2011	CAS No.	121-03-9
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名 称：2-メチル-5-ニトロベンゼンスルホン酸</p> <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陽性</p> <p>比活性値=42.1rev/mg (-S9mix 群：TA98)</p> <p>-S9mix 群の TA98,TA100,TA1537 及び+S9mix 群の TA100 で対照群の 2 倍を超える 復帰コロニーの誘発</p> <p>純度 79.60%. 溶媒 (注射用蒸留水-溶解). *純度換算あり</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>(本試験 I、II)</p> <p>-S9mix 群：5000 μg/plate*</p> <p>+S9mix 群：5000 μg/plate*</p> <p>(追加試験) TA1535</p> <p>-S9mix 群：5000 μg/plate*</p> <p>+S9mix 群：5000 μg/plate*</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 79.60%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU. *純度換算あり</p> <p>2.2 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群：2.2 mg/mL*</p> <p>+S9mix 群：2.2 mg/mL*</p> <p>24 時間処理群：2.2 mg/mL*</p> <p>48 時間処理群：2.2 mg/mL*</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	79.6%	
	用量	3 投与群 (175, 350, 700 mg/kg)	
	死亡	700 ♀ (2/12)	
	NOEL	反復投与毒性：175 mg/kg/day 生殖発生毒性：700 mg/kg/day	
推定根拠	<p>反復投与毒性：</p> <p>組織学的所見 (胃-境界縁粘膜の過形成, 噴門部粘膜の萎縮：350 以上 ♀♂)</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>特に毒性学的影響は認められていない。</p>		

	他の毒性	体重↓：700♀♂ 摂餌量↓：700♂ 一般状態（喘鳴・軟便・腹部膨満：700♀♂） 血液生化学的検査（Fe↑・TP↓：700♂） 組織学的所見（胃－腺胃のびらん・表層出血：700♀♂）
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陽性、染色体異常試験は陰性、NOEL 175 mg/kg/day であるも、NOEL の推定根拠において毒性学的に軽微な変化のみが発現していることから第二種監視化学物質相当でない。	
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 30、39、50、65、86、110、140mg/L 実測濃度 30、40、50、66、87、110、140 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく）=120 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=65 mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 78、100、140、180、240 mg/L 実測濃度 81、100、140、180、240 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく）=130 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 2.4、6.3、16、44、120 mg/L 実測濃度 設定値の98～107% 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく）=16 mg/L	
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 100 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 96hLC50（設定値に基づく）>100 mg/L	
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値は、0-72hErC50=120mg/L（藻類生長阻害試験）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=16mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当でない。	
備考		

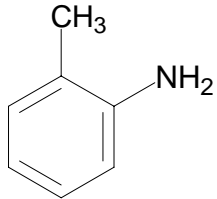
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-204	CAS No.	93-68-5
判定結果	総合判定 人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：o-アセトアセトトルイジド <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性 被験物質（o-アセトアセトトルイジド）は汚泥系において変化し、o-トルイジン（2-メチルアニリン）を生成し、被験物質とともに残留した。		
蓄積性	高濃縮性でない o-アセトアセトトルイジド及びo-トルイジンともにPow測定試験を実施した。		
Ames	陰性 純度 99.93%. 溶媒（DMSO-溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. （本試験 I、II） -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate		
染色体 異常	陽性 D20=5.14mg/mL（24時間処理群：構造異常） ±S9mix 処理群、24時間処理群及び48時間処理群において構造異常の誘発。 純度 99.93%. 溶媒（1%CMC-Na水溶液-溶解）. CHL/IU. 5.0mg/mLまで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：5.0mg/mL（2.5 mg/mL以上で被験物質の析出） +S9mix 群：5.0mg/mL（最高用量で被験物質の析出） 24時間処理群：5.0mg/mL（細胞毒性のため2.5mg/mLまで観察） 48時間処理群：3.6mg/mL（細胞毒性のため1.8mg/mLまで観察） （確認試験） 24時間処理群：3.5mg/mL（細胞毒性のため3.0mg/mLまで観察）		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：1%MC水溶液	
	純度	99.93%	
	用量	4投与群（8, 25, 80, 250mg/kg/day）	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与毒性：25 mg/kg/day 生殖発生毒性：250 mg/kg/day	

	推定根拠	<p>反復投与毒性： 血液学的検査（RBC↓・MCV↑：80以上♂） 血液生化学的検査（Bil↑：80以上♂） 組織学的所見（肝－ヘモジリデン沈着：80以上♂♀ 脾－ヘモジリデン沈着・鬱血：80以上♂♀）</p> <p>生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない</p>
	他の毒性	<p>反復投与毒性： 血液学的検査（Hgb↓・Hct↓・MCH↑・Ret↑・ハイツ小体保有赤血球数↑ ：250♂） 血液生化学的検査（K↑：250♂） 絶対重量（脾↑：250♀♂） 相対重量（脾↑：250♀♂、肝↑：250♀、下垂体↑：250♂） 組織学的検査（腎－近位尿細管上皮好酸性小体：250♂、 脾－髓外造血巣：250♀♂）</p>
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL25mg/kg/day で毒性学的に重要な変化（溶血性貧血等）がみとめられることから第二種監視化学物質相当該物質及び変化物が第二種監視化学物質であるため総合判定として第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 95、170、310、560、1000 mg/L 実測濃度 92、160、300、540、990 mg/L（時間加重平均値） 助剤： HCO-40 100mg/L 0-72hErC50（設定値に基づく）=750 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=170 mg/L</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 200、300、440、670、1000 mg/L 実測濃度 200、300、450、660、990 mg/L（時間加重平均値） 助剤： HCO-40 100 mg/L 48hEiC50（設定値に基づく）=930 mg/L</p>	
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週3回換水 試験濃度： 設定濃度 5.0、10、20、40、80 mg/L 実測濃度 4.7、9.6、19、38、76 mg/L（時間加重平均値） 助剤： HCO-40 100 mg/L 21dNOEC（設定値に基づく）=10 mg/L</p>	

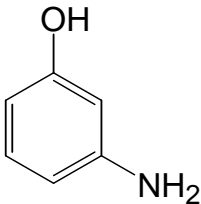
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、1日に2回換水 物質濃度：設定濃度 100 mg/L 実測濃度 100 mg/L（時間加重平均値） 助剤：HCO-40 100 mg/L 96hLC50（設定値に基づく）>100 mg/L
生態影響 判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 0-72hErC50=750mg/L（藻類生長阻害試験）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=10mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。 当該物質は、収集された情報からは、第三種監視化学物質相当ではないが、変化物が第三種監視化学物質相当であるため、総合判定として第三種監視化学物質相当。
備考	変化物あり

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-186	CAS No.	95-53-4
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成 12 年 9 月 22 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当【審議済み】		
名称 構造式等	名 称：o-トルイジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響	第二種監視化学物質として、平成 12 年 9 月 22 日告示済み。 発がん性の疑いがあること及び変異原性がみとめられていることから化学物質排出把握 管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれ があると判断された。		
藻類生長 阻害【審 議済み】	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 1.3、2.9、6.4、14、31、68、150 mg/L 実測濃度 1.3、3.0、6.3、13、29、64、140 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) =120 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =6.4 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害【審 議済み】	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に全量交換 試験濃度：設定濃度 1.5、4.4、13、40、120 mg/L 実測濃度 1.5、4.3、12、38、110 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (設定値に基づく) =16 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 【審議済 み】	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：流水式 試験濃度：設定濃度 0.0013、0.0040、0.013、0.040、0.13、0.40 mg/L 実測濃度 0.0012、0.0038、0.012、0.041、0.13、0.41 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 21dNOEC (設定値に基づく) =0.013 mg/L		

魚類急性毒性【審議済み】	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 59、89、130、200、300 mg/L 実測濃度 60、88、120、200、290 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=150 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 89 mg/L 群：表層集中（96h 1/10） 体色明化（96h 3/10） 活動度の低下（96h 3/10） 130 mg/L 群：活動度の低下（48h 2/10、72h 8/8、96h 8/8） 体色明化（72h 3/8、96h 8/8） 200 mg/L 群：活動度の低下（24h 9/10、48h 3/3） 表層集中（24h 3/10、48h 2/3） 嗜眠状態（24h 1/10） 筋肉痙攣（24h 10/10、48hr 1/3） 軽度平衡喪失（24h 3/10、48h 1/3） 300 mg/L 群：活動度の低下（24h 6/10） 完全平衡喪失（24h 6/10） 嗜眠状態（24h 4/10） 筋肉痙攣（24h 10/10）</p>				
他の毒性情報	<p>[化学物質の環境リスク評価 第1巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEbC50=3.9 mg/L 魚類に対する毒性として ・ <i>Cyprinidae</i> 48hLC50=78.5 mg/L</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.013mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51 H10	8/68 0/39	0.14~20(μ g/L) —	0.1~0.6(μ g/L) 0.08(μ g/L)
	底質	S51 H10	27/68 7/36	0.002~0.013(μ g/g-dry) 0.0054~0.0074(μ g/g-dry)	0.002~0.012(μ g/g-dry) 0.0043(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
	その他 (大気)	S60	0/72	—	0.05~150(ng/m^3)
備考	<p>※1 S52、S61、H11 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）</p>				

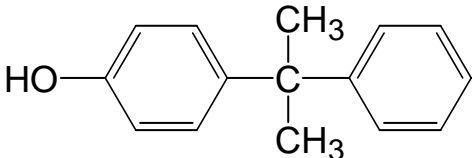
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-675	CAS No.	591-27-5
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当【審議済み】		
名称 構造式等	名称：3-アミノフェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.7%. 溶媒 (DMSO-溶解). (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体 異常	陽性 D20 値 = 0.12 mg/mL (24 時間処理群 : 構造異常) 24 時間処理群で構造異常の誘発. 純度 99.7%. 溶媒 (局方注射用水-溶解). CHL/IU. 1.1 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.1mg/mL +S9mix 群 : 0.12mg/mL (分裂指数の極端な減少のため 0.06mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 1.1 mg/mL (分裂指数の極端な減少のため 0.06mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 1%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.70%	
	用量	3 投与群 (80, 240, 720 mg/kg).	
	死亡	なし	
	NOEL	80 mg/kg/day	
推定根拠	組織学的所見 (腎-近位尿細管褐色色素沈着 : 240 以上♀・720♂)		

	他の毒性	体重↓：720♀♂ 一般状態（流涎・振戦：720♀♂） 尿検査（尿量↑：720♂♀、尿比重↓：720♀） 飲水量↑：720♀ 血液学的検査（RBC↓・Hgb↓・Ret↑：720♀） 血液生化学的検査（GPT↑・Bil↑：720♀♂、Cho↑・TG↓：720♂、 BUN↑・γ-GTP↑：720♀） 絶対重量（脾↑：720♀、甲状腺↑：720♀♂） 相対重量（脾↑：720♀、甲状腺・肝・腎↑：720♀♂、精巢↑：720♂） 組織学的所見（脾－ヘモジリデン沈着：720♂♀、 腎－近位尿細管上皮硝子滴：720♂、 肝－クッパー細胞褐色色素沈着：720♀♂、 下垂体－好塩基性細胞肥大：720♂、 甲状腺－濾胞細胞肥大：720♀♂）
	回復性	甲状腺重量↑、肝－クッパー細胞褐色色素沈着、腎－近位尿細管上皮褐色色素沈着
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 80mg/kg/day（最高用量では神経行動毒性がみとめられる）であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害【審議済み】	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 6.2、12、25、50、100、200 mg/L 実測濃度 5.7、12、23、46、94、190 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく）=160 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=25 mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害【審議済み】	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.26、0.64、1.6、4.0、10 mg/L 実測濃度 0.10、0.25、0.64、1.6、4.0、10 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 48hErC50（設定値に基づく）=0.45 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害【審議済み】	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 流水式 試験濃度： 設定濃度 0.025、0.050、0.10、0.20、0.40 mg/L 実測濃度 設定値の 74.1～120% 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく）=0.050 mg/L	

<p>魚類急性毒性【審議済み】</p>	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 59、89、130、200、300 mg/L 実測濃度 57、80、130、190、290 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=120 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 89 mg/L 群：活動度の低下（48hr 2/10、72hr 2/10、96hr 4/10） 130 mg/L 群：活動度の低下（24hr 10/10、48hr 4/4、72hr 3/3、96hr 3/3） 筋肉痙攣（24hr 10/10） 軽度平衡喪失（96hr 1/3） 200 mg/L 群：活動度の低下（24hr 3/8、48hr 2/3） 筋肉痙攣（24hr 6/8、48hr 1/3、72hr 1/1） 軽度平衡喪失（48hr 1/3、72hr 1/1） 過活動（24hr 5/8、48hr 1/3） 表層集中（24hr 4/8、48hr 1/3） 300 mg/L 群：活動度の低下（48hr 2/4） 筋肉痙攣（24hr 7/7、48hr 3/4、72hr 1/1） 軽度平衡喪失（24hr 1/7、48hr 2/4、72hr 1/1） 過活動（24hr 7/7、48hr 1/4） 表層集中（24hr 5/7、48hr 1/4、72hr 1/1） 狂奔（24hr 2/7、48hr 1/4）</p>				
<p>他の毒性情報</p>	<p>[化学物質の環境リスク評価 第2巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Chlorella pyrenoidosa</i> 72hEC50=50 mg/L ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=1.1 mg/L</p>				
<p>生態影響判定根拠</p>	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.45mg/L、かつミジンコ繁殖阻害試験 21dNOEC=0.050mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
<p>環境調査※1</p>	<p>媒体</p>	<p>実施年度</p>	<p>検体</p>	<p>検出範囲</p>	<p>検出限界</p>
	<p>水質</p>	<p>S61</p>	<p>1/27</p>	<p>1.1(μg/L)</p>	<p>0.7(μg/L)</p>
	<p>底質</p>	<p>S61</p>	<p>0/27</p>	<p>—</p>	<p>0.03(μg/g-dry)</p>
	<p>魚類</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
<p>備考</p>	<p>※ 1 S62 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

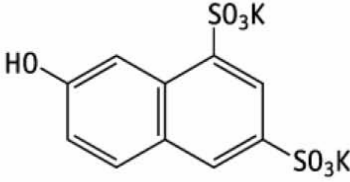
官報公示 整理番号	4-122	CAS No.	599-64-4
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名 称： 4 - (1 - メチル - 1 - フェニルエチル) フェノール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.88%. 溶媒 (DMSO-溶解). (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 200 μg/plate (100 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 200 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 400 μg/plate (WP2uvrA : 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 98.88%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.1mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群 : 0.016 mg/mL (細胞毒性のため 0.008 mg/ mL まで観察) +S9mix 群 : 0.06 mg/mL (細胞毒性のため 0.03 mg/ mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.04 mg/mL (細胞毒性のため 0.02 mg/ mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : オリーブ油	
	純度	99.88%.	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000mg/kg)	
	死亡	1000♂ (3/14), 1000♀ (1/14)	
	NOEL	100 mg/kg/day	
	推定根拠	<p>尿検査 (尿量↑・尿比重↓ : 300 以上♀・1000♂、尿沈渣 : 300 以上♀♂) 一般状態 (飲水量↑ : 300 以上♀♂) 相対重量 (肝↑ : 300 以上♂・1000♀) 組織学的所見 (腎-尿細管上皮再生 : 300 以上♂・1000♀)</p>	

他の毒性	<p>体重↓：1000♂ 一般状態（軟便：1000♀♂） 血液学的検査（WBC↑：1000♂、Plt↑：1000♀♂、APTT↑：1000♀） 血液生化学的検査（Alb↓・A/G↓・TG↑：1000♀、 GPT↑・ALP↑・γ-GTP↑・Pi↑：1000♀♂、 TP↑・Bil↑・Glu↓・Cho↑・BUN↑・CRN↑・K↓・ Cl↓・Ca↑：1000♂） 絶対重量（肝↑・腎↑：1000♀♂、胸腺↓：1000♀） 相対重量（腎↑：1000♀♂、胸腺↓：1000♀、甲状腺↑：1000♂） 組織学的所見（胃－前胃境界縁のびらん・扁平上皮過形成：1000♀♂、 肝－胆管増生：1000♀♂、 腎－腎尿細管拡張・顆粒円柱・皮質リンパ球浸潤・腎乳頭好中球浸潤 集合管上皮再生：1000♀♂）</p>
回復性	<p>飲水量・尿量↑、尿比重↓、腎臓重量↑、腎臓－腎尿細管拡張・顆粒円柱・皮質リンパ球浸潤・尿細管上皮再生・集合管上皮再生</p>
人健康影響判定根拠	<p>Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

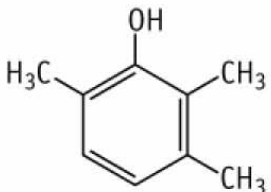
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	7-903	CAS No.	1333-16-0
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称：メチレンジフェノール（ビスフェノールF） 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.0%. 溶媒（DMSO－溶解）. （本試験 I、II） TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群：1250 μg/plate（最高用量で菌の生育阻害） +S9mix 群：1250 μg/plate（TA100,TA1535,TA1537：最高用量で菌の生育阻害） 2500 μg/plate（TA98：最高用量で菌の生育阻害） 5000 μg/plate（WP2 uvrA：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害）		
染色体 異常	陽性 D20=0.010 mg/mL（+S9mix 群：構造異常）. ±S9mix 群で構造異常の誘発。 純度 99.0%. 溶媒（DMSO－溶解）. CHL/IU. 2.0 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.18 mg/mL（細胞毒性のため 0.09 mg/mL まで観察） +S9mix 群：0.018 mg/mL（細胞毒性のため 0.009 mg/mL まで観察） 24 時間処理群：0.12 mg/mL（細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察）		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.1%Tween80 添加 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.0 %	
	用量	4 投与群（8, 40, 200, 1000 mg/kg）	
	死亡	1000 ♀（1/12）	
	NOEL	8 mg/kg/day	
	推定根拠	血液生化学的検査（Cho ↓：40 以上 ♀・1000 ♂）	
	他の毒性	体重 ↓：1000 ♂ 血液生化学的検査（γ-GTP ↑・Glu ↓：1000 ♀） 絶対重量（肝 ↑：1000 ♀） 相対重量（肝 ↑：200 以上 ♀・1000 ♂、副腎 ↑：200 以上 ♀） 組織学的所見（胃－前胃粘膜過形成・境界縁過形成・前胃潰瘍：1000 ♀ ♂、 肝－小葉中心性肝細胞肥大：200 以上 ♀ ♂）	
回復性	肝重量 ↑、副腎重量 ↑、肝－小葉中心性肝細胞肥大		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 8 mg/kg/day であることから 第二種監視化学物質相当。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-498	CAS No.	842-18-2
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：7-ヒドロキシ-1, 3-ナフタレンジスルホン酸カリウム 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 89.2%. 溶媒 (局方注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate (追加試験) TA1535 -S9mix 群 : 500 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度 89.2%. 溶媒 (注射用蒸留水-溶解). CHL/IU. 3.8mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 3.8 mg/mL +S9mix 群 : 3.8 mg/mL 24 時間処理群 : 3.8 mg/mL 48 時間処理群 : 3.8 mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 1%カルメロースナトリウム水溶液	
	純度	89.2%	
	用量	3 投与群 (100,300,1000 mg/kg)	
	死亡	対照群♂ (1/14)事故による	
	NOEL	100 mg/kg/day	
	推定根拠	血液生化学的検査 (Cho ↓ : 300 以上♀)	
	他の毒性	血液学的検査 (Hct ↑・Hgb ↑:1000♀) 絶対重量 (脾 ↓ : 1000♂) 相対重量 (脾 ↓ : 1000♂)	
回復性	脾臓重量 ↓		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	9-899	CAS No.	2416-94-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：2, 3, 6-トリメチルフェノール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.67%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 1250 μ g/plate (TA100, TA1535 : 625 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1537, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1250 μ g/plate (TA100, TA1535 : 625 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1537, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陽性 D20=0.053 mg/mL (48 時間処理群 : 構造異常) ±S9mix 処理群及び 48 時間処理群で構造異常の誘発. 純度 99.67%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 0.5 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群 : 0.2 mg/mL +S9mix 群 : 0.2 mg/mL 24 時間処理群 : 0.2 mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.2 mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度) (確認試験) 24 時間処理群 : 0.2 mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.2 mg/mL (50%以上細胞分裂指数抑制濃度)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.67%	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	1000♀ (2/10) (投与過誤による)	
	NOEL	100 mg/kg/day	
推定根拠	血液生化学的検査 (Pi ↑ : 300 以上♂)		

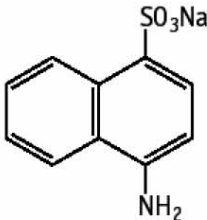
	他の毒性	体重↓：1000♀♂ 一般状態（歩行失調また腹臥位：1000♀♂） 尿検査（尿量↑：1000♂、尿 pH↓：1000♀、尿中 Bil↑：1000♀♂） 血液学的検査（RBC↓・Hgb↓・Hct↓：1000♀） 血液生化学的検査（Alb↓：1000♂） 絶対重量（脾↑：1000♀） 相対重量（脾↑・肝↑：1000♀） 組織学的検査（肝－小葉中心性肝細胞肥大：1000♀♂ 脾－髓外造血：1000♀ 脾－ヘモジリデン沈着，静脈洞拡張：1000♀♂ 胃－前胃の扁平上皮びまん性過形成：1000♀♂）
	回復性	脾重量↑、組織学的検査（胃－前胃の扁平上皮びまん性過形成）
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 100 mg/kg/day（回復性の悪い病理組織学的所見がみとめられる）であることから第二種監視化学物質相当。	
備考		

既存化学物質審査シート

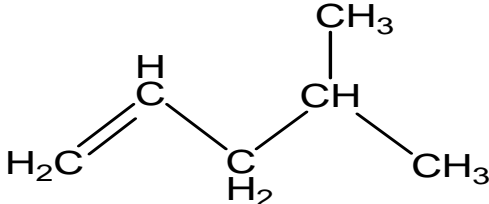
官報公示 整理番号	3-2006	CAS No.	127-68-4		
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。				
名称 構造式等	<p>名 称： 3-ニトロベンゼンスルホン酸ナトリウム</p> 				
分解性	難分解性				
蓄積性	高濃縮性でない				
Ames	<p>陰性 純度 98.8%. 溶媒 (蒸留水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate</p>				
染色体 異常	<p>陰性 純度 98.8%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU. 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：5.0 mg/mL +S9mix 群：5.0 mg/mL 24 時間処理群：5.0 mg/mL 48 時間処理群：5.0 mg/mL</p>				
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水			
	純度	98.8%			
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)			
	死亡	なし			
	NOEL	1000 mg/kg/day			
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない			
	他の毒性	-			
回復性	問題なし				
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 1000 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/6	—	6.6~10(μg/L)
	底質	S52	0/6	—	0.5~0.78(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—

備考	※1 S53版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)
----	-------------------------------

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-492	CAS No.	130-13-2
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名 称： 4-アミノ-1-ナフタレンスルホン酸ナトリウム</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 76.1%. 溶媒 (注射用水-溶解). *純度換算あり (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate* +S9mix 群 : 5000 μg/plate*</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 76.1%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 5.0 mg/mL* +S9mix 群 : 5.0 mg/mL* 24 時間処理群 : 5.0 mg/mL* 48 時間処理群 : 5.0 mg/mL* (確認試験) 48 時間処理群 : 5.0mg/mL*</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用水	
	純度	76.1%	
	用量	3 投与量(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 1000mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-22	CAS No.	691-37-2
判定結果	生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称：4-メチル-1-ペンテン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養（密閉系） 試験濃度：設定濃度 0.12 mg/L 実測濃度 0.0074 mg/L(幾何平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 0-72hErC50（実測値に基づく）>0.0074 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.0074 mg/L（最高濃度では影響が認められなかった）		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.12 mg/L 実測濃度 0.082 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 48hEiC50（実測値に基づく）>0.082 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、毎日換水 試験濃度：設定濃度 0.15 mg/L 実測濃度 0.098 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.098 mg/L（最高濃度では影響が認められなかった）		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.12 mg/L 実測濃度 0.076 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50（実測値に基づく）>0.076 mg/L		

生態影響 判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、溶解限度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。
備考	